

# アレルギー 気持ちで改善

## 山梨大・中尾教授ら研究発表

### 前向きな感情 反応抑制

山梨大医学部の中尾篤人教授(アレルギー学)らは、前向きな気持ちを持つことが花粉症などアレルギー疾患を改善させるとする研究結果をまとめた。マウスを使った研究で、ドーパミンをつくり、前向きな感情をつかさどる脳内の部位「ドーパミン報酬系」が活性化すると、アレルギー反応を抑制すると分析。投薬が中心のアレルギー疾患の治療で、良好な精神状況を保てるよう働き掛けることによる治療・予防法の確立につながるとみている。



中尾篤人教授

中尾教授らは脳内ドーパミン報酬系を活性化させたマウスと活性化させなかったマウスでじんましんのアレルギー反応を比較した。服用や注射で脳内ドーパミン報酬系を活性化させる薬やウイルス、人工甘味料を投与。いずれも脳内ドーパミン報酬系を活性化させた方が活性化させなかった方より、症状が2〜3割緩和していた。

医療現場では、花粉症などのアレルギー疾患はストレスで症状が悪化すると言われて

きたが、詳細なメカニズムは分かっていなかった。今回の研究結果では、前向きな感情をつかさどる脳内ドーパミン報酬系の働きでアレルギー症状が緩和することが判明し、メカニズムの分析が前進したという。

今後は人の精神状況でもアレルギー症状に影響するかを調べる方針。感情に働き掛ける映像を見せたグループと見せなかったグループで、アレルギー反応に違いがあるかなどを調べるという。

中尾教授は『病は気から』を証明するような結果。医師が患者に前向きな気持ちを持つ

〈土屋圭佑〉

つよう働き掛けることで、症状の改善につなげられる可能性が示唆された。診療・予防一学雑誌「Allergy」面に大きな進歩が期待できると話している。

研究結果は欧州のアレルギー学会誌「Allergy」にオンライン掲載された。

#### マウスによるアレルギー反応実験

